

東金市第3次地域福祉計画・地域福祉活動計画 策定のための地区別アンケート調査【調査結果概要】

I. 調査概要

1 調査目的

本調査は、各地区で主に地域活動を担っている団体の福祉に対する考え方や地域活動への参加状況等の実態を把握するとともに、意見や提言を広く聴取し、計画策定に反映していくために実施しました。

2 調査設計

- (1) 調査対象：地域の福祉活動に関わる団体
- (2) 標本数：12 地区社協（260 人）
- (3) 調査方法：個別配布・郵送回収
- (4) 調査期間：令和3年8月下旬～10月上旬

3 調査内容

- (1) あなたご自身のことについて
- (2) 現行計画の評価と取組について

4 回収結果

- (1) 標本数：260 人
- (2) 有効回収数：189 人
- (3) 有効回収率：72.7%

5 集計表・グラフの見方

- (1) 調査結果の数値は回答率(%)で表記しており、回答率の母数(n 値)は、各質問に対する回答者数です。
- (2) 集計は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。このため、回答率の合計が100.0%にならない場合があります。複数回答可の質問では、母数に対する回答率のため、回答率の合計が100.0%を超える場合があります。

II. 調査結果概要

1 あなたご自身のことについて

本調査の回答者の属性は次の通りです。

居住地区				所属団体			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%	No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	東金第一地区(上宿、谷)	7	3.7	1	地区振興協議会	10	5.3
2	東金第一地区(日吉台、八坂台)	7	3.7	2	区長会	32	16.9
3	東金第二地区(岩崎、新宿)	13	6.9	3	民生委員・児童委員	29	15.3
4	田間地区	20	10.6	4	主任児童委員	8	4.2
5	嶺南地区	14	7.4	5	ボランティア	15	7.9
6	城西地区	17	9.0	6	長寿の会	10	5.3
7	公平地区	19	10.1	7	青少年相談員	1	0.5
8	丘山地区	12	6.3	8	子ども会	9	4.8
9	大和地区	17	9.0	9	体育協会	5	2.6
10	正気地区	27	14.3	10	食生活改善会	9	4.8
11	豊成地区	7	3.7	11	地区社協会長	8	4.2
12	福岡地区	16	8.5	12	福祉活動推進員	7	3.7
13	源地区	13	6.9	13	地区社協役員	33	17.5
	無回答	0	0.0	14	その他	13	6.9
	合計	189			無回答	0	0.0
					合計	189	

2 現行計画の評価と取組

(1) 計画の認知度

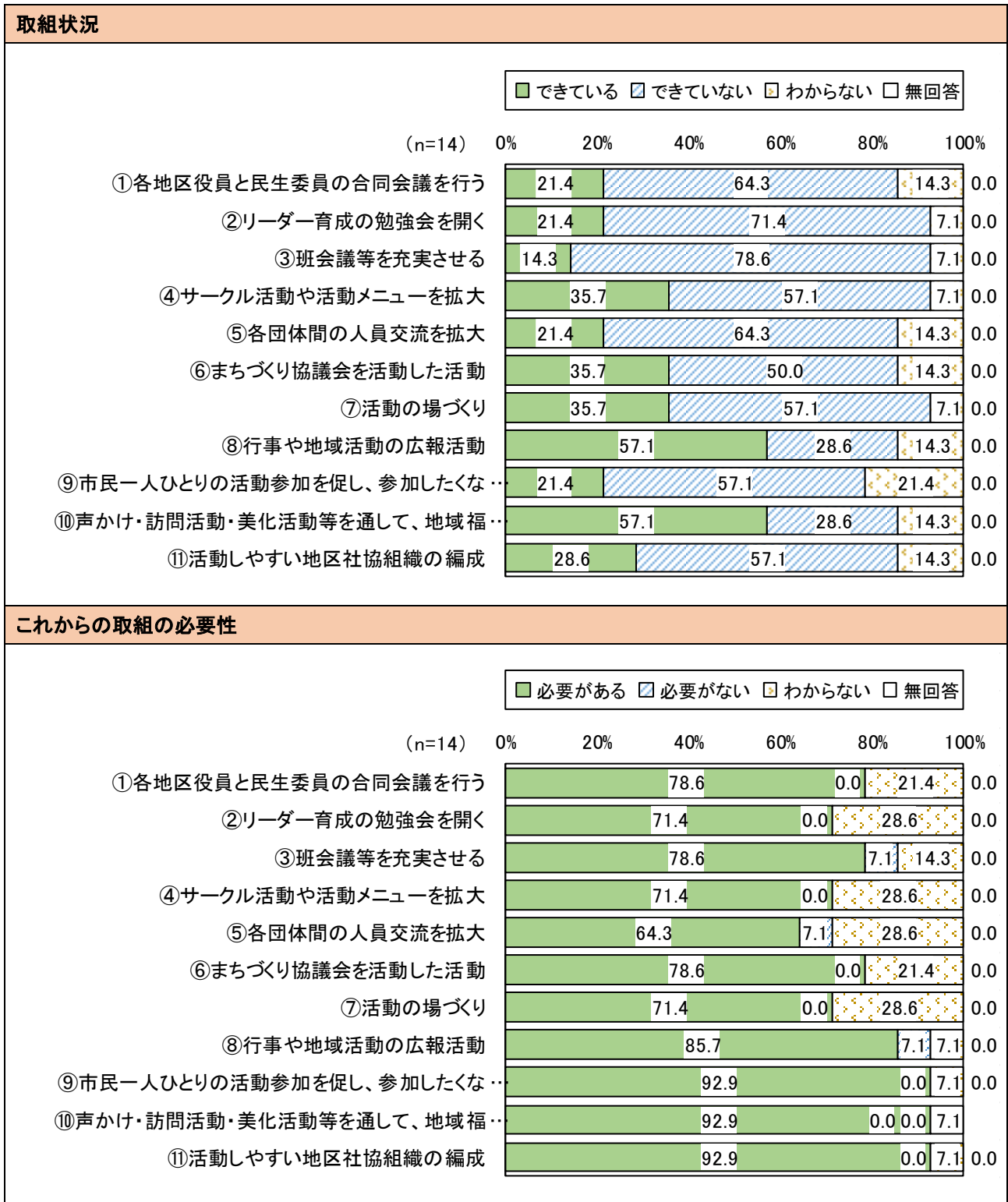
平成 29 年 3 月に策定された第 2 次計画（東金市第 2 次地域福祉計画・地域福祉活動計画）の認知度（「知っていた」と回答した人）は 58.7%となっています。

第2次計画の認知度				《参考》市民へのアンケート調査			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%	No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	知っていた	111	58.7	1	計画の内容まで知っている	6	0.9
2	知らなかった	71	37.6	2	計画があることは知っている	93	14.7
	無回答	7	3.7	3	知らない	502	79.4
	合計	189			無回答	31	4.9
					合計	632	

(2)地域ごとの取組状況

地域の取組状況は次の通りです。

①東金第一地区(上宿、谷)②東金第一地区(日吉台、八坂台)

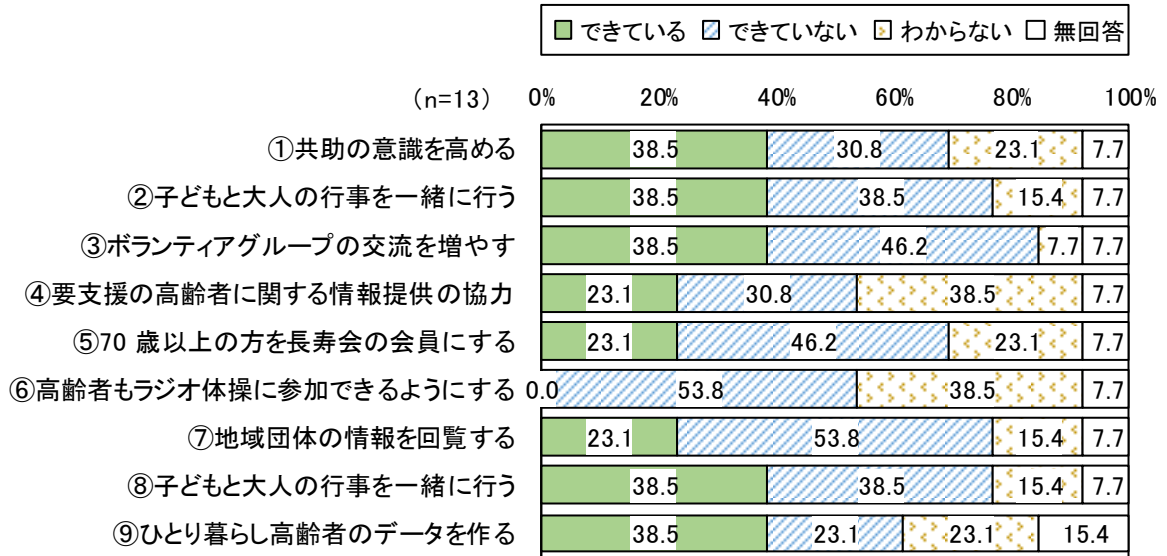


※⑨市民一人ひとりの活動参加を促し、参加したくなるような行事に勧誘してネットワークを作っていく

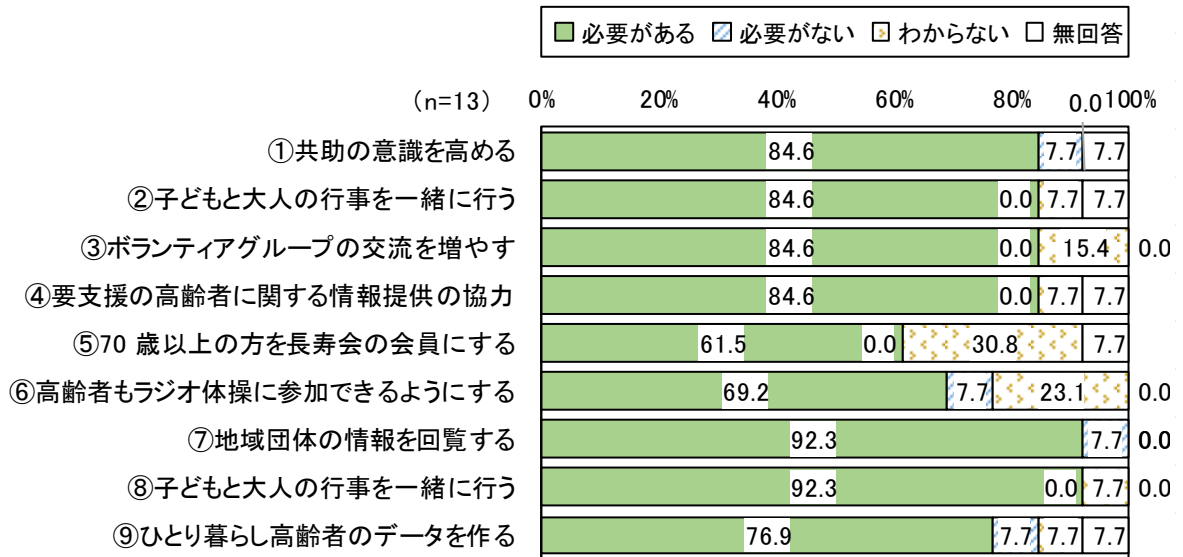
⑩声かけ・訪問活動・美化活動等を通して、地域福祉の実情を知る、地域活性活動を拡大する

③東金第二地区(岩崎、新宿)

取組状況

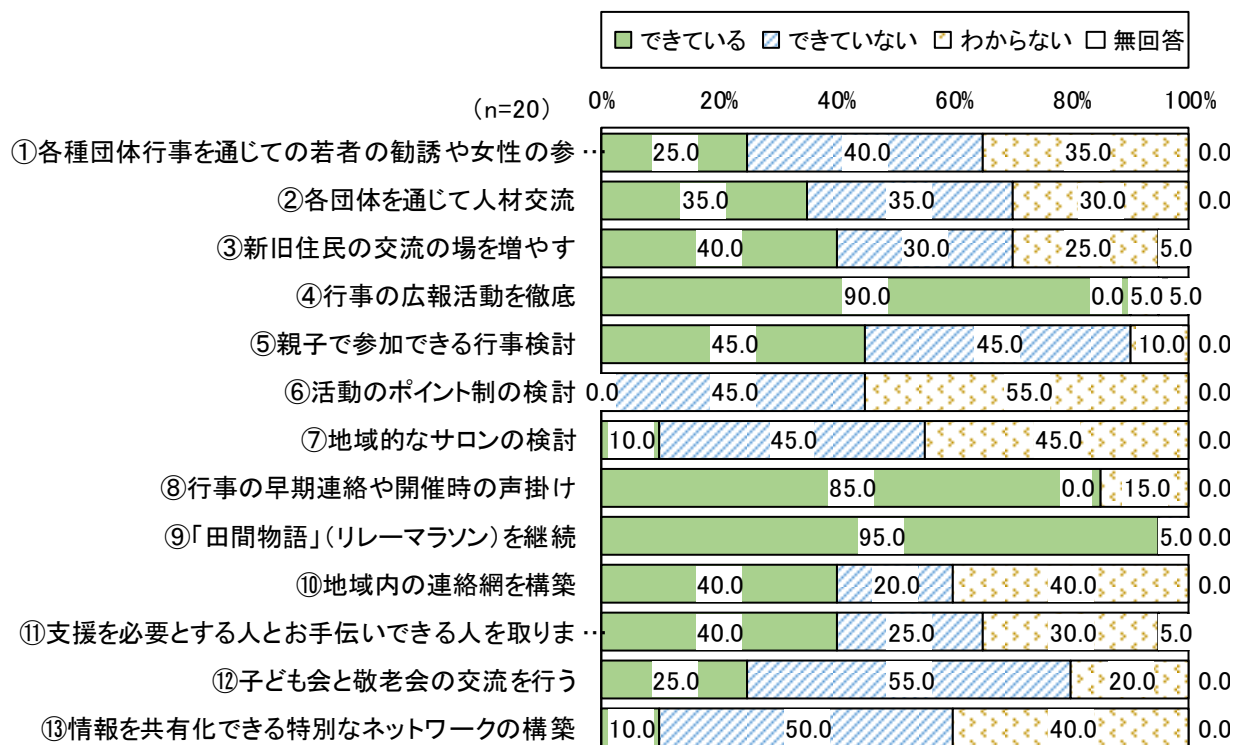


これからの取組の必要性

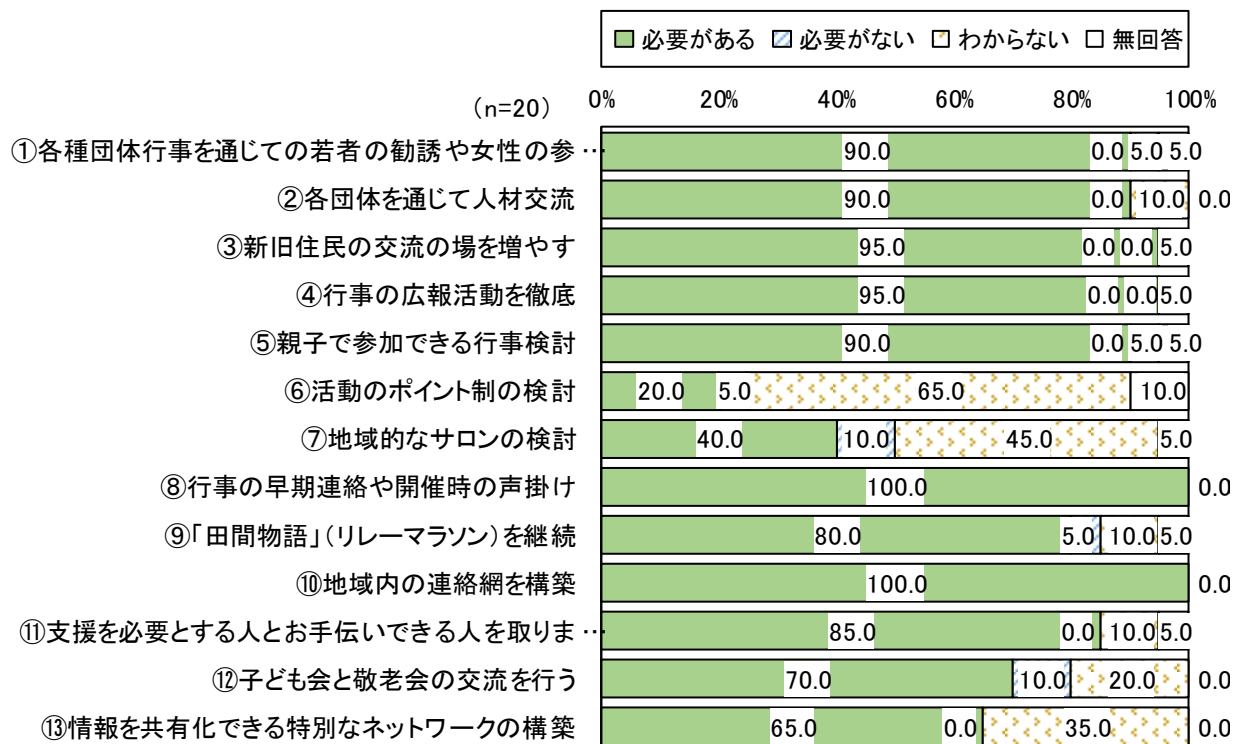


④ 田間地区

取組状況



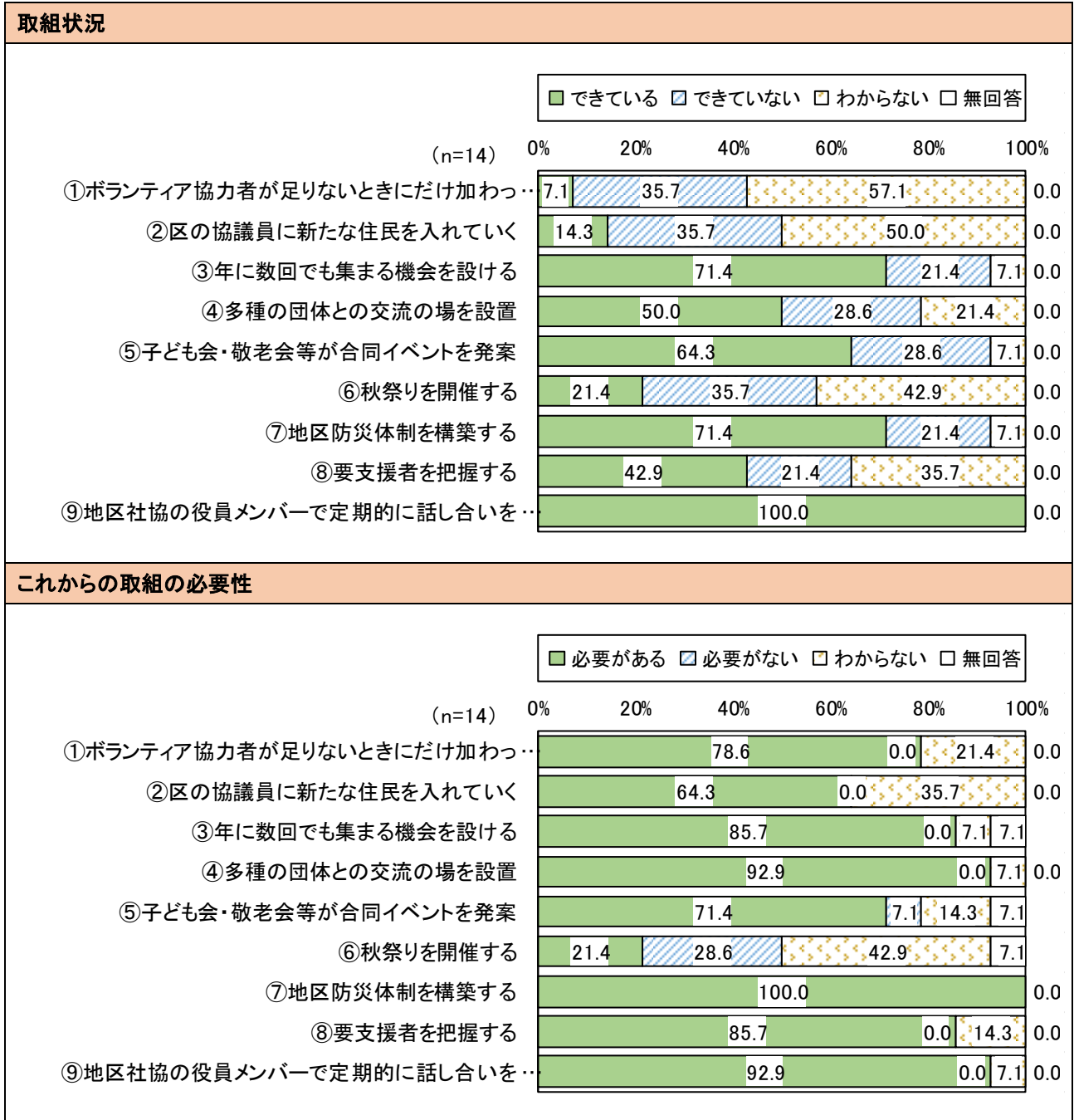
これからの取組の必要性



※①各種団体行事を通じての若者の勧誘や女性の参加促進

⑪支援を必要とする人とお手伝いできる人を取りまとめる

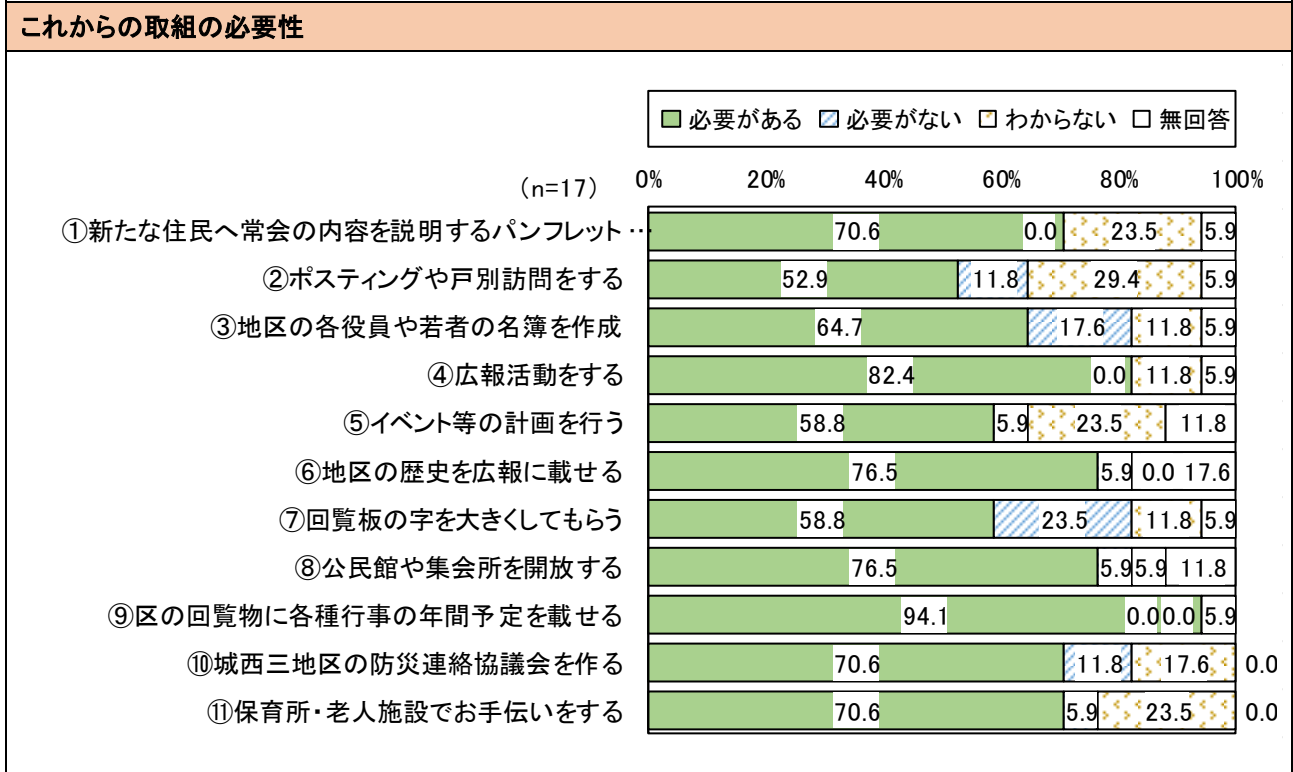
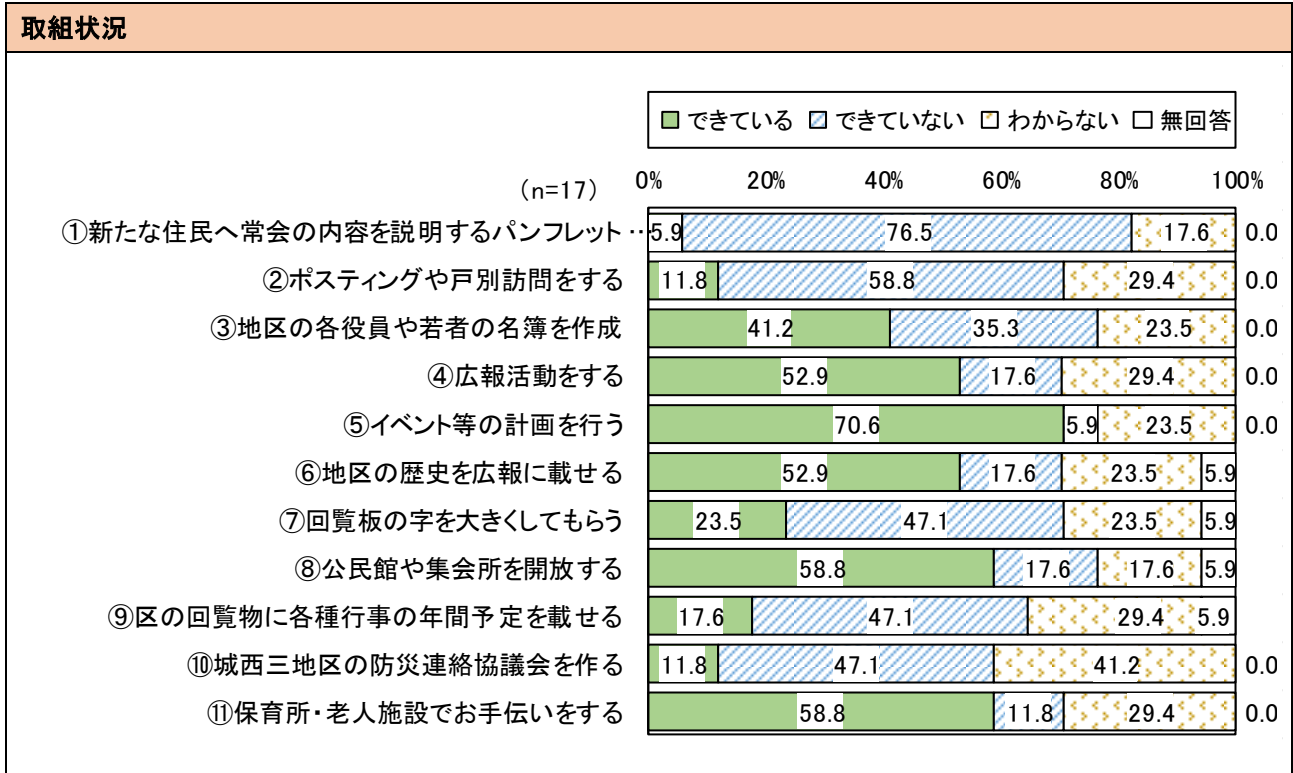
⑤嶺南地区



※①ボランティア協力者が足りないときにだけ加わってもらうグループを登録する

⑨地区社協の役員メンバーで定期的話し合いをする

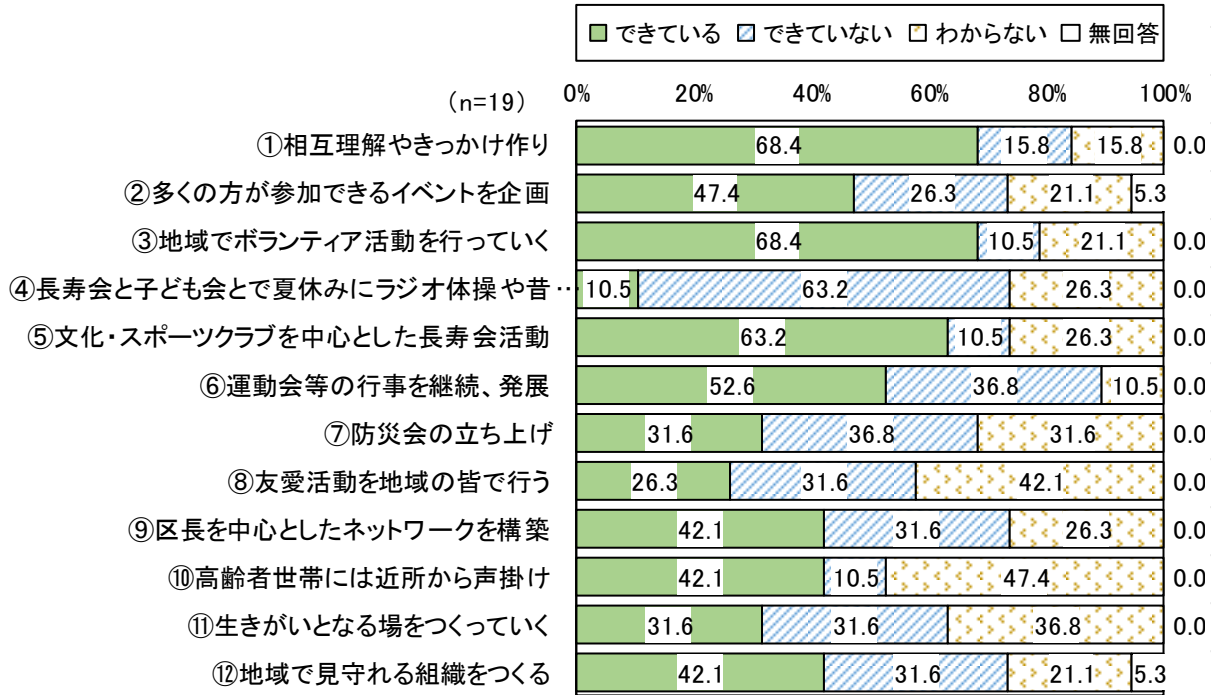
⑥城西地区



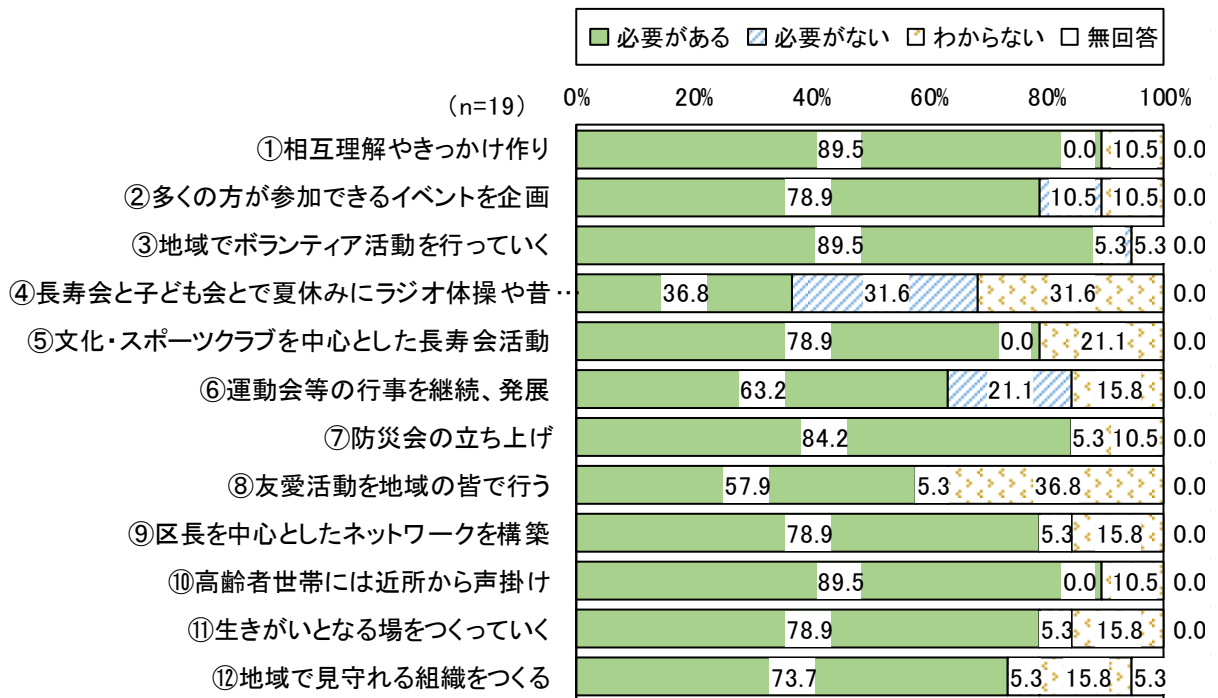
※①新たな住民へ常会の内容を説明するパンフレットを作成

⑦公平地区

取組状況

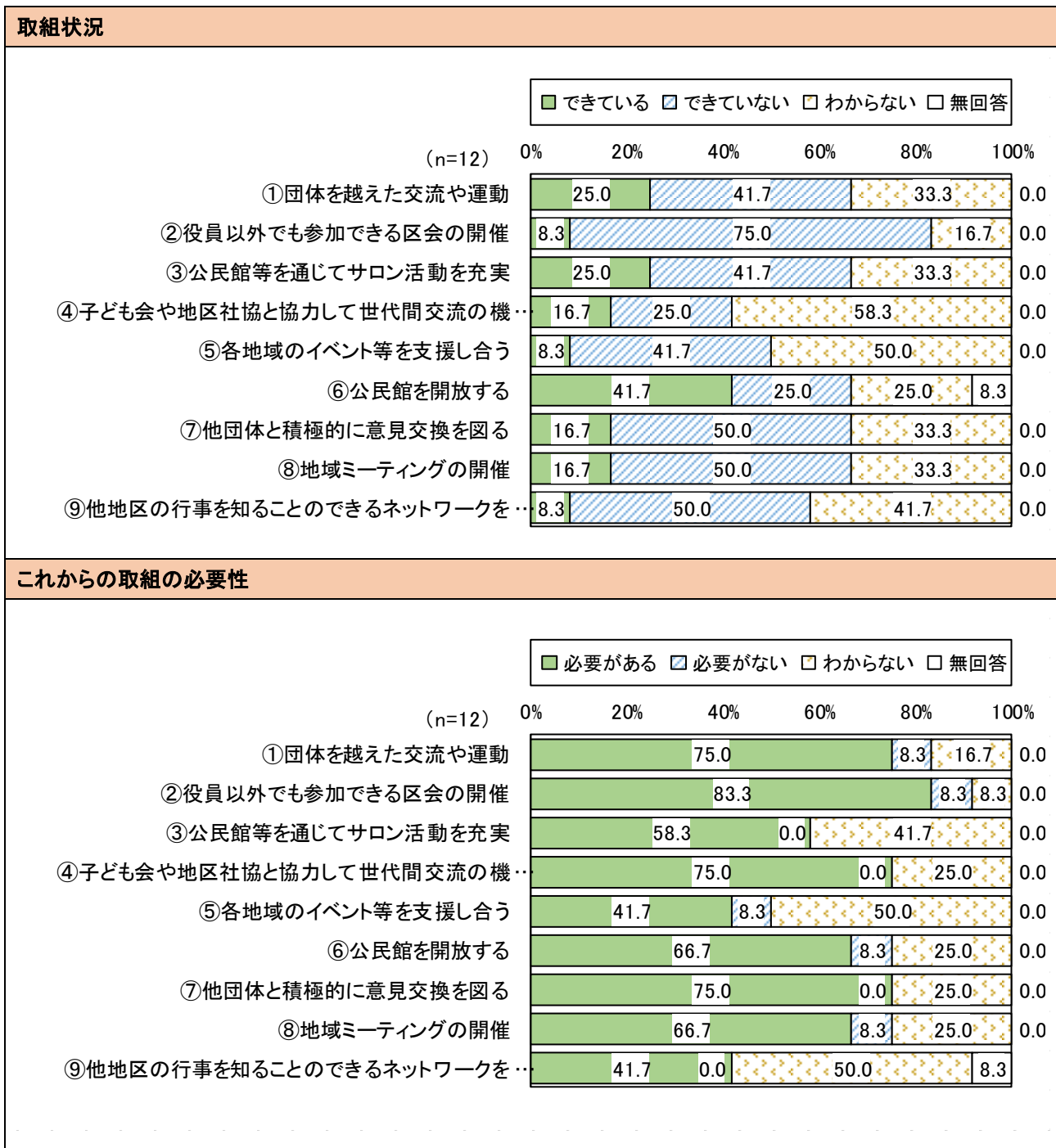


これからの取組の必要性



※④長寿会と子ども会とで夏休みにラジオ体操や昔の遊び等を合同開催

⑧丘山地区

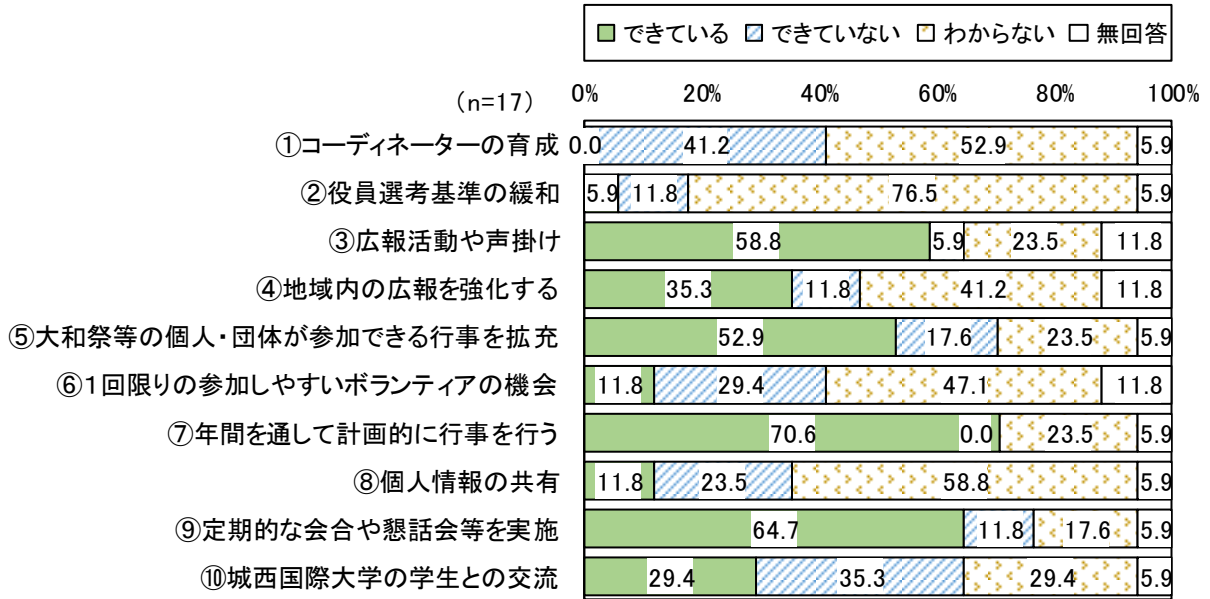


※④子ども会や地区社協と協力して世代間交流の機会を企画

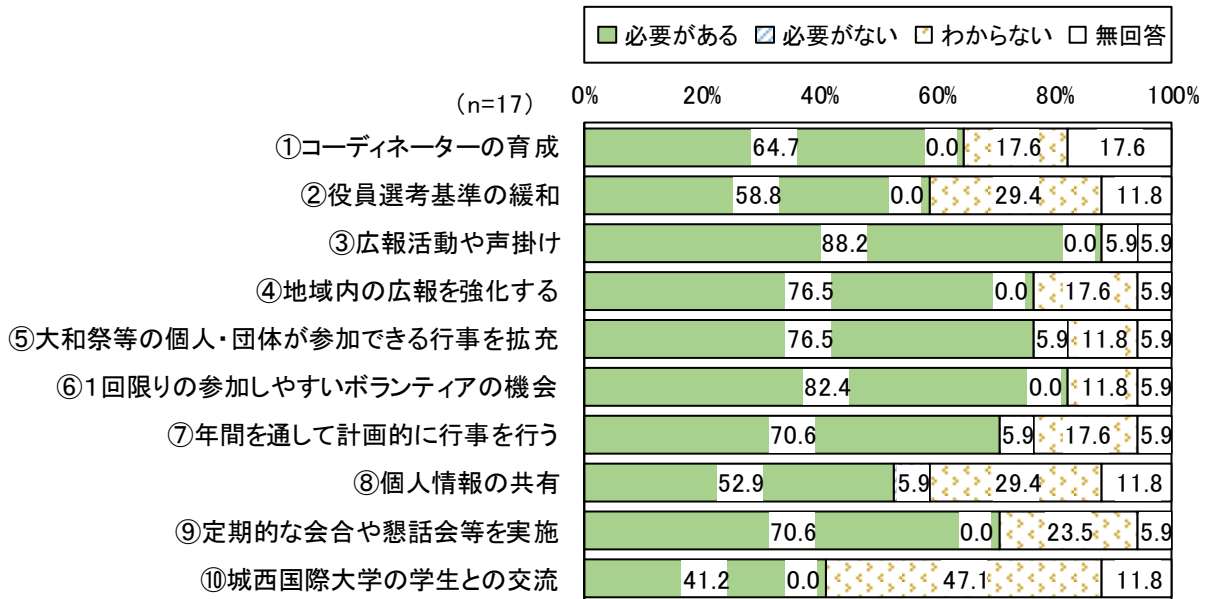
⑨他地区の行事を知ることのできるネットワークをつくる

⑨大和地区

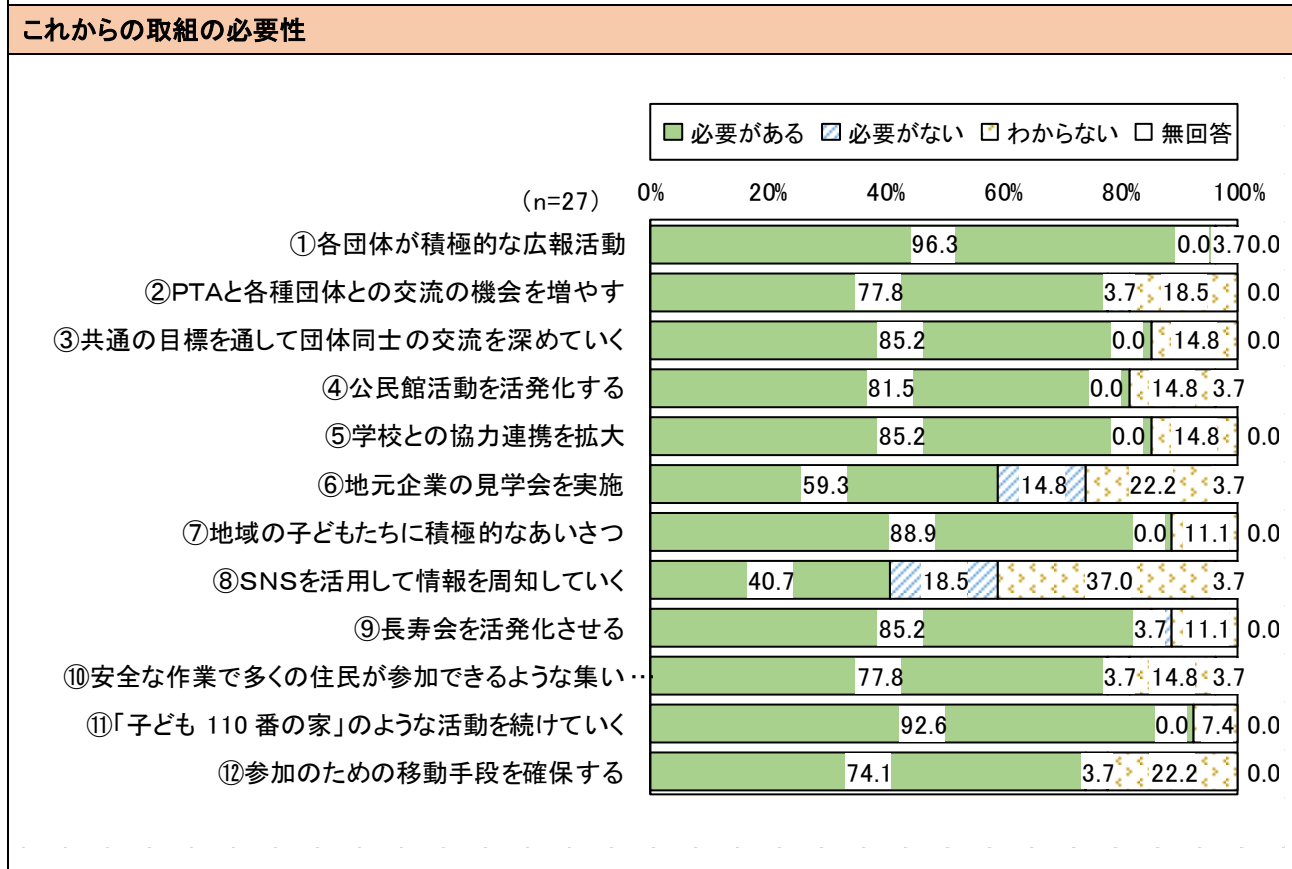
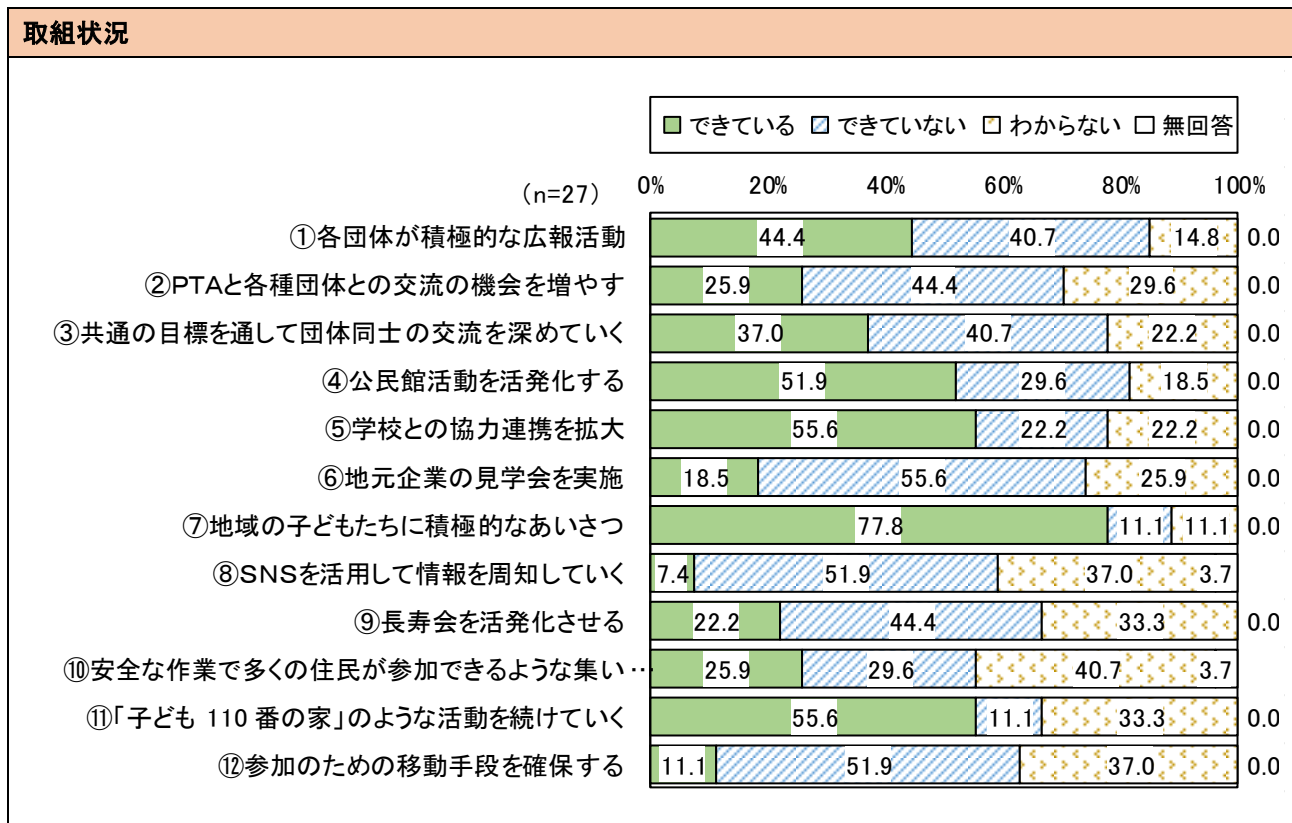
取組状況



これからの取組の必要性



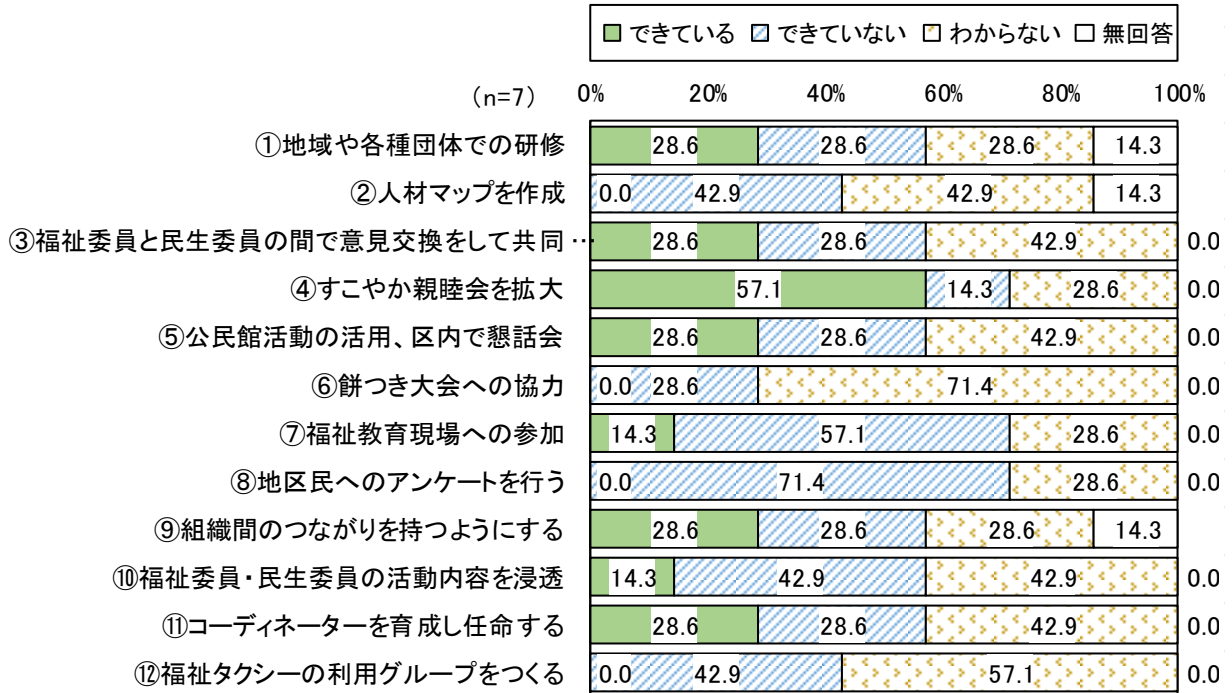
⑩正気地区



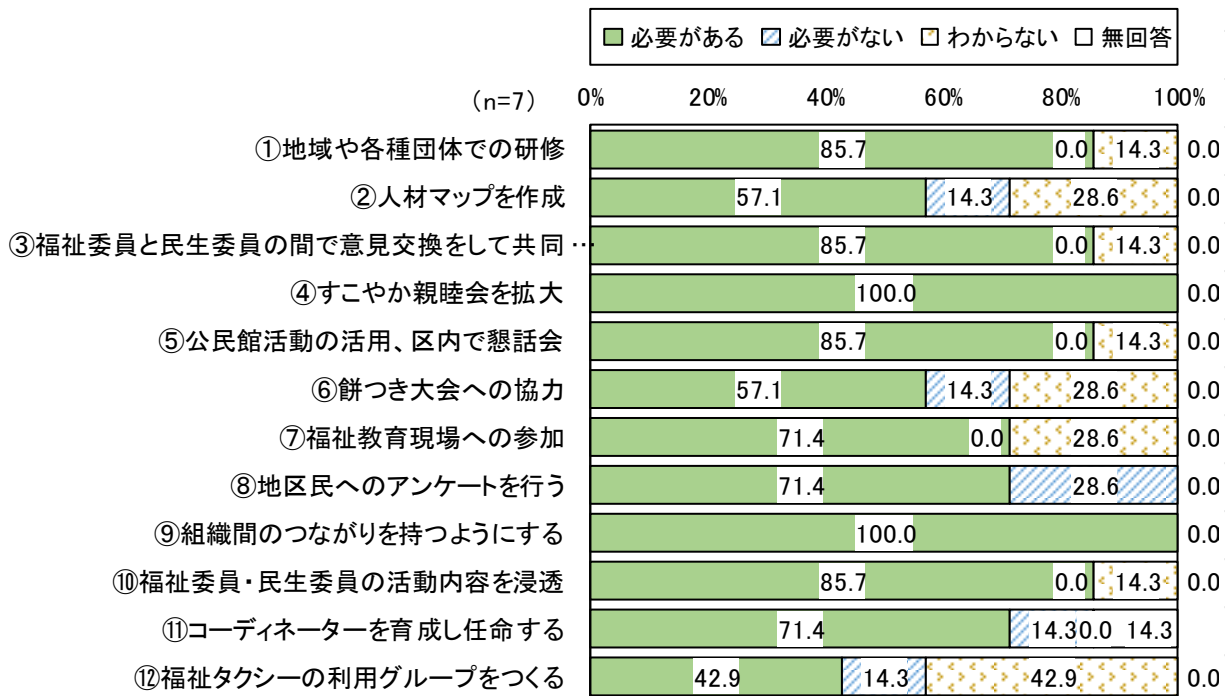
※⑩安全な作業で多くの住民が参加できるような集いを実施

⑪豊成地区

取組状況

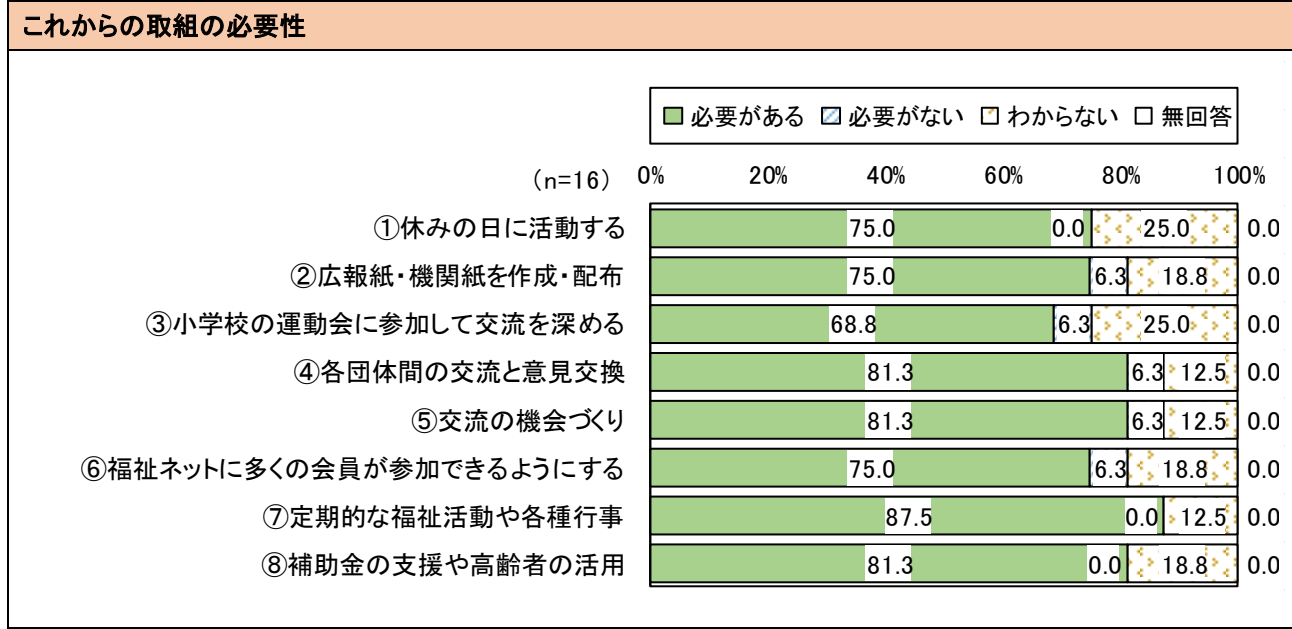
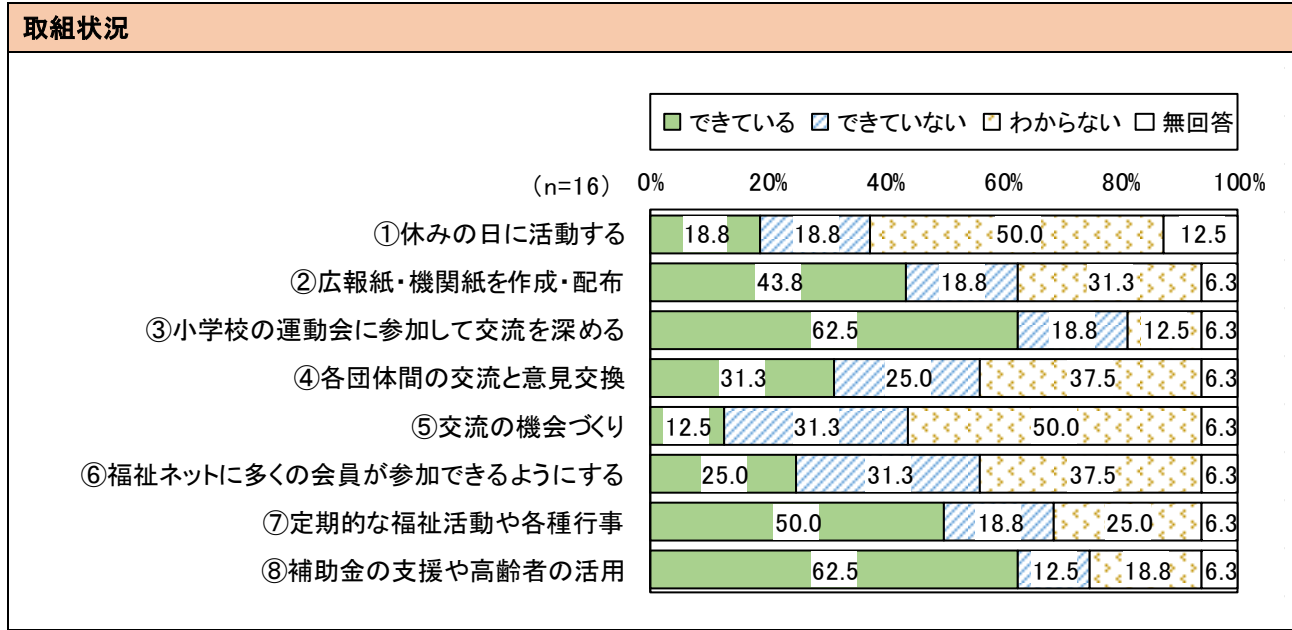


これからの取組の必要性



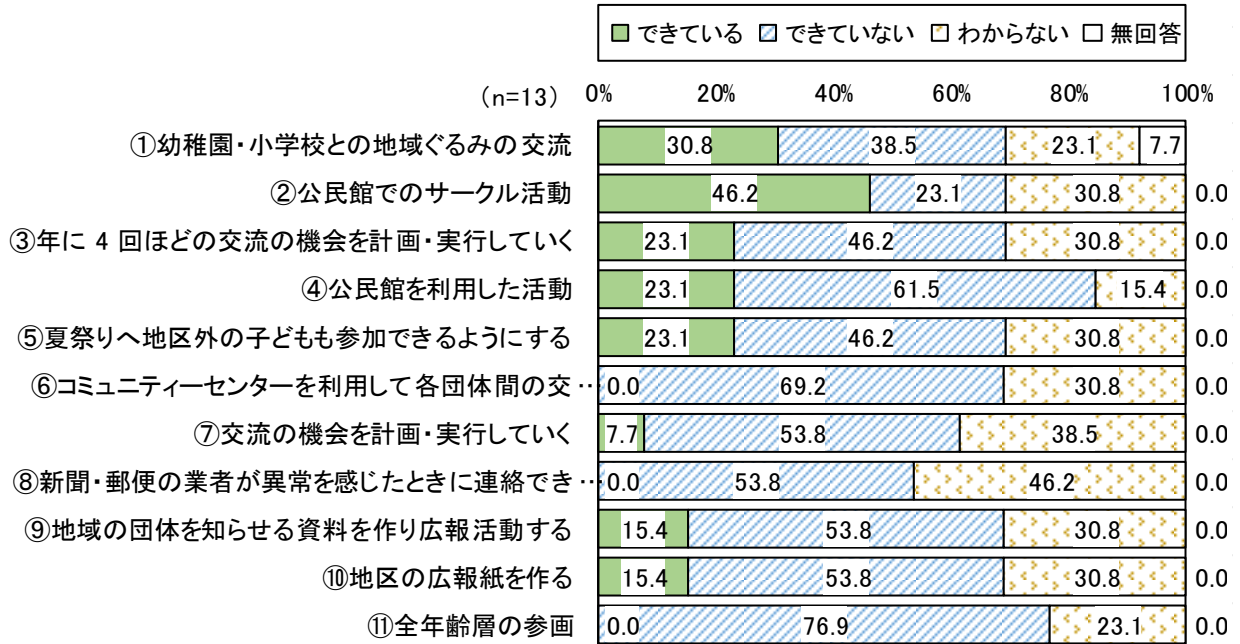
※③福祉委員と民生委員の間で意見交換をして共同の活動内容

⑫福岡地区

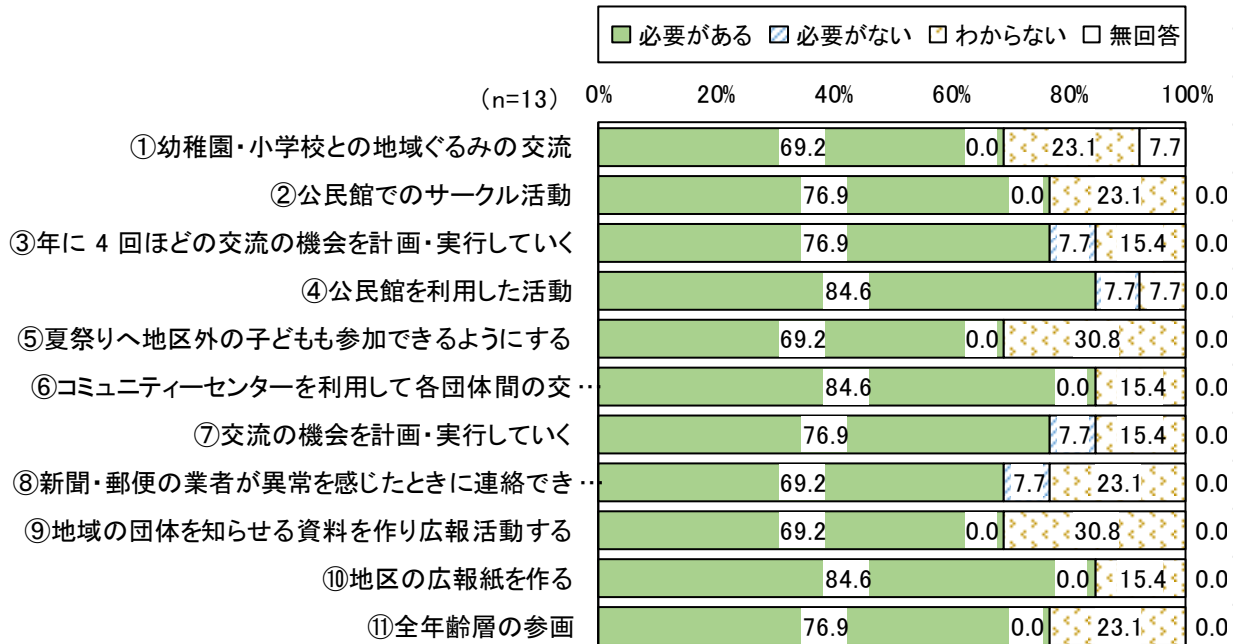


⑬源地区

取組状況



これからの取組の必要性



※⑥コミュニティーセンターを利用して各団体間の交流会を実施

⑧新聞・郵便の業者が異常を感じたときに連絡できるようにする

※「必要がある」と「できている」の差

①東金第一地区(上宿、谷) ②東金第一地区(日吉台、八坂台)		③東金第二地区(岩崎、新宿)	
取組	差	取組	差
①各地区役員と民生委員の合同会議を行う	57.2	①共助の意識を高める	46.1
②リーダー育成の勉強会を開く	50.0	②子どもと大人の行事を一緒に行う	46.1
③班会議等を充実させる	64.3	③ボランティアグループの交流を増やす	46.1
④サークル活動や活動メニューを拡大	35.7	④要支援の高齢者に関する情報提供の協力	61.5
⑤各団体間の人員交流を拡大	42.9	⑤70歳以上の方を長寿会の会員にする	38.4
⑥まちづくり協議会を活動した活動	42.9	⑥高齢者もラジオ体操に参加できるようにす	69.2
⑦活動の場づくり	35.7	⑦地域団体の情報を回覧する	69.2
⑧行事や地域活動の広報活動	28.6	⑧子どもと大人の行事を一緒に行う	53.8
⑨市民一人ひとりの活動参加を促し、参加し	71.5	⑨ひとり暮らし高齢者のデータを作る	38.4
⑩声かけ・訪問活動・美化活動等を通して、	35.8		
⑪活動しやすい地区社協組織の編成	64.3		
④田間地区		⑤嶺南地区	
取組	差	取組	差
①各種団体行事を通じての若者の勧誘や女	65.0	①ボランティア協力者が足りないときにだけ	71.5
②各団体を通じて人材交流	55.0	②区の協議員に新たな住民を入れていく	50.0
③新旧住民の交流の場を増やす	55.0	③年に数回でも集まる機会を設ける	14.3
④行事の広報活動を徹底	5.0	④多種の団体との交流の場を設置	42.9
⑤親子で参加できる行事検討	45.0	⑤子ども会・敬老会等が合同イベントを発案	7.1
⑥活動のポイント制の検討	20.0	⑥秋祭りを開催する	0.0
⑦地域的なサロンの検討	30.0	⑦地区防災体制を構築する	28.6
⑧行事の早期連絡や開催時の声掛け	15.0	⑧要支援者を把握する	42.8
⑨「田間物語」(リレーマラソン)を継続	▲ 15.0	⑨地区社協の役員メンバーで定期的に話し	▲ 7.1
⑩地域内の連絡網を構築	60.0		
⑪支援を必要とする人とお手伝いできる人を	45.0		
⑫子ども会と敬老会の交流を行う	45.0		
⑬情報を共有化できる特別なネットワークの	55.0		
⑥城西地区		⑦公平地区	
取組	差	取組	差
①新たな住民へ常会の内容を説明するパン	64.7	①相互理解やきっかけ作り	21.1
②ポスティングや戸別訪問をする	41.1	②多くの方が参加できるイベントを企画	31.5
③地区の各役員や若者の名簿を作成	23.5	③地域でボランティア活動を行っていく	21.1
④広報活動をする	29.5	④長寿会と子ども会とで夏休みにラジオ体	26.3
⑤イベント等の計画を行う	▲ 11.8	⑤文化・スポーツクラブを中心とした長寿会	15.7
⑥地区の歴史を広報に載せる	23.6	⑥運動会等の行事を継続、発展	10.6
⑦回覧板の字を大きくしてもらう	35.3	⑦防災会の立ち上げ	52.6
⑧公民館や集会所を開放する	17.7	⑧友愛活動を地域の皆で行う	31.6
⑨区の見聞録に各種行事の年間予定を載せ	76.5	⑨区長を中心としたネットワークを構築	36.8
⑩城西三地区の防災連絡協議会を作る	58.8	⑩高齢者世帯には近所から声掛け	47.4
⑪保育所・老人施設でお手伝いをする	11.8	⑪生きがいとなる場をつくっていく	47.3
		⑫地域で見守れる組織をつくる	31.6

⑧ 丘山地区		⑨ 大和地区	
取組	差	取組	差
①団体を越えた交流や運動	50.0	①コーディネーターの育成	64.7
②役員以外でも参加できる区会の開催	75.0	②役員選考基準の緩和	52.9
③公民館等を通じてサロン活動を充実	33.3	③広報活動や声掛け	29.4
④子ども会や地区社協と協力して世代間交	58.3	④地域内の広報を強化する	41.2
⑤各地域のイベント等を支援し合う	33.4	⑤大和祭等の個人・団体が参加できる行事	23.6
⑥公民館を開放する	25.0	⑥1回限りの参加しやすいボランティアの機	70.6
⑦他団体と積極的に意見交換を図る	58.3	⑦年間を通して計画的に行事を行う	0.0
⑧地域ミーティングの開催	50.0	⑧個人情報の共有	41.1
⑨他地区の行事を知ることのできるネットワ	33.4	⑨定期的な会合や懇話会等を実施	5.9
		⑩城西国際大学の学生との交流	11.8
⑩ 正気地区		⑪ 豊成地区	
取組	差	取組	差
①各団体が積極的な広報活動	51.9	①地域や各種団体での研修	57.1
②PTAと各種団体との交流の機会を増やす	51.9	②人材マップを作成	57.1
③共通の目標を通して団体同士の交流を深	48.2	③福祉委員と民生委員の間で意見交換をし	57.1
④公民館活動を活発化する	29.6	④すこやか親睦会を拡大	42.9
⑤学校との協力連携を拡大	29.6	⑤公民館活動の活用、区内で懇話会	57.1
⑥地元企業の見学会を実施	40.8	⑥餅つき大会への協力	57.1
⑦地域の子どもたちに積極的なあいさつ	11.1	⑦福祉教育現場への参加	57.1
⑧SNSを活用して情報を周知していく	33.3	⑧地区民へのアンケートを行う	71.4
⑨長寿会を活発化させる	63.0	⑨組織間のつながりを持つようにする	71.4
⑩安全な作業で多くの住民が参加できるよ	51.9	⑩福祉委員・民生委員の活動内容を浸透	71.4
⑪「子ども110番の家」のような活動を続け	37.0	⑪コーディネーターを育成し任命する	42.8
⑫参加のための移動手段を確保する	63.0	⑫福祉タクシーの利用グループをつくる	42.9
⑫ 福岡地区		⑬ 源地区	
取組	差	取組	差
①休みの日に活動する	56.2	①幼稚園・小学校との地域ぐるみの交流	38.4
②広報紙・機関紙を作成・配布	31.2	②公民館でのサークル活動	30.7
③小学校の運動会に参加して交流を深める	6.3	③年に4回ほどの交流の機会を計画・実行	53.8
④各団体間の交流と意見交換	50.0	④公民館を利用した活動	61.5
⑤交流の機会づくり	68.8	⑤夏祭りへ地区外の子どもも参加できるよう	46.1
⑥福祉ネットに多くの会員が参加できるよう	50.0	⑥コミュニティーセンターを利用して各団体	84.6
⑦定期的な福祉活動や各種行事	37.5	⑦交流の機会を計画・実行していく	69.2
⑧補助金の支援や高齢者の活用	18.8	⑧新聞・郵便の業者が異常を感じたときに通	69.2
		⑨地域の団体を知らせる資料を作り広報活	53.8
		⑩地区の広報紙を作る	69.2
		⑪全年齢層の参画	76.9

(3)第2次計画のテーマ別の地域の取組状況

地域の取組状況について、いずれも「進んでいない」が最も多く、「①地域人材の発掘・育成」と「②世代・地域を越えた交流機会の拡充」では過半数を占めています。

地区の中で連携できると思う団体は、①～③のいずれの取組においても、「地区振興協議会」、「区長会」、「地区社協」、「民生委員・児童委員」、「ボランティア」、「長寿会」、「子ども会」の割合が高くなっていることがわかります。

